

回胴倒錯者

- PACHISLO FREAK -

激戦

兄貴宅を出発したのが夜中の12時前。ランドオープン翌日の午後6時なので、と見積もっても18時間近くある。あまりの並び時間の長さゆえ、時間潰し用のトランプ、雑誌などをコンビニで買い込みいざ下店へ。

到着すると意外にも凄い行列ができていた。軽く200人近くは並んでいる。オープンまで半日以上あるというのに。果然と立ち尽くす。確実にマンクラゲットは不可能だ。しかし、食料・トランプまで買い込んで来たため、少し並んでみることに。最後尾に腰を下ろし、お菓子、ジュースを食べながらトランプで遊びだす。ここでは明日の前哨戦のような形で、身内を相手にしたギャンブルが繰り返されたのは言うまでもない。小1時間ほど時間が経過し、ギャンブル心がほどほどに熱せられたあたりで、店員さんが拡声器でなにやら説明を始めている。

「ただ今より、整理券を…」

人ごみの声にかき消され、ハッキリとは聞こえなかったが、どうやら整理券を配ってくれる様子。18時間耐えろのつもりで並びに来ていたので多少拍子抜けしたが、ムダな労力は使われないに越したことはない。そして間もなく順次整理券の配布が行われ、私の貰った番号はなんと186番(あまりにも人が多くビックリしたので、はつきりと記憶に残っている)。この順番ではマンクラに座ることは不可能だろう。しかし1時間ほど並んだだけで済んだので、座れるならマンクラじゃなくてもいいかと考えていた。明日の狙い台を何にするかという話で盛り上がりながら3人仲良く兄貴宅へ引き返したのだった。

兄貴宅で待たせられたらと過し、開店時間が近づいてきた頃、再び下店へ出発した。すでに大勢の人だかりでこたえ返していたが、整理券があるので慌てることはなかった。開店時間の少し前に入場が開始され整理券順にぞろぞろと入場していく。そこで再び兄貴に聞いてみる、「何打つか決めた？」兄貴いわく「まだ。入ってから決めるわ」依然としてこの様子。

兄貴宅で待たせられたらと過し、開店時間が近づいてきた頃、再び下店へ出発した。すでに大勢の人だかりでこたえ返していたが、整理券があるので慌てることはなかった。開店時間の少し前に入場が開始され整理券順にぞろぞろと入場していく。そこで再び兄貴に聞いてみる、「何打つか決めた？」兄貴いわく「まだ。入ってから決めるわ」依然としてこの様子。

時速千枚

整理券の回収、お客さんの誘導などでホール内が慌ただしくなり、それらが落ち着きだした頃、ついに開店のカウントダウンが行われ、二斉に遊技が開始された。皆が同時に遊技しだし、店内BGMが台の音にかき消され、かわりにスロットパチンコ多様種に入混じった音がBGMになつていった。小役など狙う必要はない。全開適当押しでリーチ目等待つ。そしてボーナス中もハズシ等はせず適当押し(ハズすことはできたが、たいした効果はなかった)。CIT中が腕の見せ所となってくる。いかに早く規定枚数に近づけ、規定枚数を超えそうになった時に正確に小役をハズせるかがポイントだ。もちろん私はフルウエイで消化、マンクラの6のすばらしいところはハズらずに確実に出る場所にある。まさに時速千枚である。1時間打てば勝っている。同じ万枚仕様の猛獣王や大花火なら、1時間という短いスパンなら負けていることもあるだろう。しかしマンクラは綺麗な右肩上がり(の正比例のグラフが完成する)。

順調に増え続けるメダルを見ながら少し考えてみる、時速千枚なら5時間で5千枚か。十分な枚数だな。頭上には2箱がすでに積み上げてある。時間は午後8時半。残り2時間半、後半戦だ！と気合を入れたとき、なにやらマイクアナウンスが聞こえてきた「本日の閉店時間は…」ファンファーレにかき消され、肝心なところが聞こえなかった。

にやらマイクアナウンスが聞こえてきた「本日の閉店時間は…」ファンファーレにかき消され、肝心なところが聞こえなかった。

通りがかった店員さんに聞いてみると、なんと9時閉店。たったの3時間営業！しかも残りわずか20分。残り時間の少なさに愕然としながらも更にスピードを増して消化していく。そして遊技終了。獲得したメダルは3千枚と少し。やはり時速千枚であった。7枚交換であったが、4万の勝ちだった。N君も兄貴もそれぞれ1万ほどの勝利を取っていた。3人仲良く勝利を取めたのは、この日が最初で最後かもしれない。

帰りの車内でも今日の勝利について語り合い、N君に関してはマンクラを認め、やっぱり言われたとおりマンクラにしとけば良かった」と言ってくれたが、兄貴に関しては「2万使つてやっと当たって、確変が続いてよかつたわ。やっぱりあれが良かったな、あのモゲラがヒョコと出てきてやな。(以下略)」。こんな調子である。そのモゲラが出てくれればどうなるのかは未だ知る由も無いが、あの時の

やたら嬉しそうに話す兄貴の顔はいまだに忘れられない。

花火

大阪に戻り、再びコンドル・タコスロードギージャム三昧。取支も好調ではあったが、ここ暫くどつぷりとハマり込める機種が全く出ない。そういうときはS君に電話だ。

真夏の暑いある日、S君と私の会話。

私「ハナビって機種が出たんやけど、凄く面白い勝てるよ！」

私「リアル光るヤツやろ？サングターはよくてイヤや。しかもハズシ2コマもあるし、簡単やから興味ないし」

S君「サングターとは全然違うって！ほんと面白いから打つてみなごて！」

私「やだね。スロットではリアルが光る必要なんかない！」

全くもって頑固だったのだ。リアル配列さえ見ようとしなかった。配列を見ればささず飛びついていきたらう。結果からいうと、後に「頭先からつま先まで」どつぷりハマりまくる機種だったのだが。今考えても非常に良く考えられたリアル配列&テーブル制御だったと深く感心してしまう。コンドルの配列と似ているが若干異なる。そしてその若干の変化がすばらしい。そしてあのフラッシュ。かなり絶妙な出現の仕方である。まさに非の打ち所のない機種だった。リーチ目、ハズシ、スベリ、予告音、様々な要素が絶妙に絡みあい、目押しのできないう年配の方、夕方からのサラリーマン、そしてスロットに詳しい若者、スロットで生活している者など幅広い層に深く支持されていた。これほど万人に愛された機種は極めて稀である。そしてそれがこの機種

のでき栄えの証拠でもあったのだ。

とある昼下がり。いつものホールでタコやらコンドルと戯れていると、S君がひよここと現れ「ハナビ打たへん？判別したら5以上あるんやけど用事で帰らなアカンようになってん。負けはないと思うよ。」と申し訳なきように話しかけてきた。食わず嫌いやアレだし、今日二日打つてみるか。もし気に入らないなら、今後打たなきゃいいだけの話だし。「オツター。ほなその台引き継ぐわ。」とS君に告げ、何となくでしか見たことなかったハナビの前に腰を下ろしたのであった。これが正しく運命の出会いというやつだろうか。リアルを2.3周させ配列を確認した瞬間背中に鋭い電流が走ったような感じがした。「この配列で…」そう感じた瞬間払い出し表に目を向ける。「思った通りだ！こいつはイケる！」そう確信したのであった。ポイントよく配置されたチェリーに加え、中リアルだけフオローすればハサミ打ちで全小役がカバーできる配列。サングターに近いと思っていた配列は大好きなコンドルに酷似していた。あとはハズシ効果さえあれば今後の生活に大きな潤いをもたらすことになりそうなる予感が全身を貫く。打ち始めて数千円、初めてのビッグボーナスを消化した瞬間に、予感実感に変わっていたのであった。

それからの日々はかわすもがな。来る日も来る日も花火を打ち上げ続けていたのである。知れば知るほど面白さを増すゲーム性。打てば打つほど増える取支。ハナビはそんな機種だったのである。毎日無数の花火を打ち上げていた頃、私のスロット人生に衝撃を与える機種が出現する。それは難しいとか、面白いとかではなく、勝ててしまっただ。設定1でも簡単に…。それはまさにわたしが初めて体験した「攻略法」だった。

◆次回予告◆
「ハナビ」が大ブレイク中の同時期、発売して間もなく攻略法が発覚してしまう機種が現れた。その機種は…。そしてその効果は、破格の機械割(出率)に乞うご期待！

★最近の出来事★

あるスロット店で数年ぶりになつかしい人物に会いました。丸顔にいつもの丸い黒のサングラス。三重にスロットが入ったぞ、スロットのうんちくを片っ端から私に聞いてきたおっちゃんです。今では見違えるようになってしまっています。いまだに私を師匠、師匠と呼んでくれますが、最近の台のことなら私もよも遥かに詳しくそうです。当時「ルパン三世」という機種にハマっていて、ビタ押しハズシ(ボーナス絵柄等、目立つ絵柄がないのでかなり難しい部類を極めるため、実機を購入し、ボタンが壊れるまで練習したと聞きます。今では難しい機種もなく、昔は良かったと嘆くばかり。私もそう思っています。コンドルは良かった。しかし私が打っていたより以前の、2号機3号機世代の方々もきつと「昔は良かった」と、嘆いたと思うのです。今大きなルール改正(5号機)に伴い、新しい時代になりました。北斗、吉宗世代の方々には物足りないかもしれませんが、そして彼らも口を揃え「昔は良かった」と言うでしょう。しかし5号機からスロットを始めたユーザーたちは、それがスロットであり、楽しいものだと思います。将来6号機が出る頃に、その5号機世代の方々はやっぱり言うと思います「5号機は良かった」。それは今までの歴史が教えてくれています。逆に言い換えれば、昔は良かったと嘆くばかりではなく、新しいものについても研究すれば、きっと5号機が苦手な方も将来「吉宗も良かったけど、5号機も良かった」と言えるようになると思います。

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

